

1. 件名：福島第一原子力発電所3号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果に係る面談
2. 日時：令和2年5月27日（水）10時30分～11時20分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室  
知見主任安全審査官、松井安全審査官  
福島第一原子力規制事務所  
坂本原子力運転検査官、木村原子力防災専門官（テレビ会議システムによる出席）  
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー  
廃炉安全・品質室 担当3名（テレビ会議システムによる出席）  
福島第一原子力発電所 担当2名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、福島第一原子力発電所3号機における燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について、資料に基づき以下の説明を受けた。
- 3号機燃料デブリ冷却状況の確認試験に係るこれまでの経緯
  - 試験結果の考察
    - ✓ 試験中のRPV及びPCV温度の挙動とPCV水位について
    - ✓ 熱バランス評価と実績温度との比較について
    - ✓ 注水停止中に採取した放射線データについて
  - 1～3号機の試験結果のまとめ
    - 1～3号機において原子炉注水を一時的に停止する試験の結果として、以下のことがわかった。
      - ✓ 試験中のRPV及びPCVの温度上昇が小さく、ダスト濃度等への影響もなかったことから、一時的な原子炉注水の停止によって、燃料デブリの冷却状態に問題はないこと。
      - ✓ 熱バランスモデルによって、RPV底部温度やPCV温度を概ね評価可能であること。
      - ✓ 注水停止中の温度上昇率から、注水停止時にRPV底部温度が80℃に到達するまでの時間余裕は10日以上と見込まれ、従来評価（約10時間）に比べて大幅に余裕があること。
  - 今後の計画
    - ✓ 緊急時対応手順の適正化
      - 試験で確認した注水停止時の時間余裕を踏まえ、トラブルの同時発生時にはより緊急性が高い対応に傾注すること等、安全上の優先順位を適正に判断する手順となるよう速やかに社内マニュアルを改定する。
    - ✓ 実施計画（運転上の制限）の見直し
      - 試験で燃料デブリの冷却状態に問題がなかったことを踏まえ、一時的な注水停止が可能となるよう原子炉注水系の運用方法の見直しを検討する。また、熱バランスモデルによってRPV及びPCV温度を概ね評価可能であることを踏まえ、炉内温度監視方法の見直しを検討する。

- ✓ P C V水位変動等の知見拡充のため、停止時間を延長した注水停止試験の追加実施等も計画する。

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、今後の原子炉注水停止に向けた計画について、早急に説明することを求めた。

## 6. その他

資料： 3号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の結果について